

農協青年の主張

若い力で ジャンプ

盟友と共に汗したことが、希望の汗となることを信じ、「明日を生き抜こう」。農村青年の張りのある声が響きわたった。農協青年の主張全国大会。三十日、全国農協青年大会に併せて開かれ、会場の日本青年館大ホールでは、アロック代表六人が登壇。減反の強化、農産物の輸入攻勢のなかで、模索しながらも自らの農の道を二歩一歩突き進む決意を胸を張って主

張。盟友のスクラムを呼びかけた。 (写真は発言順)

「ポスト三期の全ぼうが明らかになされた今、皆さんは明日の農業は見えませんか。秋田県羽後三輪農協青年部の下橋賢一さんは、こう切り出した。転作野菜のキュウリ八割の純収入がわ

敵しくなった第三次生産調整にすぎない。中核農家を目指す者が、ますます追い込まれる」と、希望の持てる農政の確立へ組織力の結集を呼びかけた。高校生の際にブラジルで研修をした兵庫県篠山町農協青年部の栗野勝浩さん。大規模稲作の実現を夢に就農したが、待ち

を請け負い作業で脱け出し「減農産物の輸入枠拡大という問題に直面しているが、対抗するのには鮮度、新鮮さです」と、米田農業研修でのひらめきを披瀝。それと共に、「人間投資の時代です。体をいたわり、鋭気を養うことが必要」と説き、消費者のニーズにこたえられる作物

「生きるものは生き、去るものは去れ」と言われているような気がしますが、他の産地を良きライバルとして受けとめ、互いの競争心が技術向上を促し、高品質を生み出し、ひいては輸入農産物を寄せつけないだけの力を備えることにつながる」と互いの鍛錬での勝負を強調。

静岡県静岡市農協青年部の中村正治さんは、葉ショウガと石垣イチゴの不動の産地づくりに挑む。米田農業研修視察で見たものは、人件費の高騰、過剰投資なき様々な問題に窮地に立たされながらも、力強く生きるアメリカ農民のたくましさでスプリットでした」と述べ、この感動を胸に、大地にしっかりと根をおろした百姓として生き抜く決意を表明した。

胸を張り自らの決意

ずか一万八千円のことでもあつて受けていたのは厳しい米減らし政策でしたと述べ、その苦境

ミニケースションを通じ、青年野菜作りの中、ゆとりある農

家庭生活をめざす香川県香川豊南

千葉県旭市農協青年部 加瀬 正和



静岡県静岡市農協青年部 中村 正治

秋田県羽後三輪農協青年部 下橋 賢一

香川県香川豊南農協青年部 土田 稔隆

兵庫県篠山町農協青年部 栗野 勝浩

佐賀県白石地区農協青年部 江永 良宏

千葉県旭市農協青年部 加瀬 正和